

学校の授業を、家庭でも！

国語の授業って、実は、こうやってできてます！ 第4号

文学的な作品（物語）の学習を家庭で取り組むとしたら、

- ①「誰が何をしたのかを、文章から正確にとらえる」
- ②「文章に書いていないこと、場面からを想像する」
- ③「文章の内容について、（自分の経験と重ねて、）気づいたこと（似ているところや違うところ）を家の人に伝える」
- ④「書いてある同じ部分について、家の人を考えを聞き、自分の考えとの違いに気付く」

前回は、①と②について紹介しました。

今回は、③と④についてお話しします。

では、始めましょう。

③「かえるみたいな気持ちになったことある？」

③「文章の内容について、（自分の経験と重ねて）気づいたこと（似ているところや違うところ）を家の人に伝える」についてです。

「土の中から出てきたかえるたちは、みんなどんな気持ちなんだろうね？」と聞いてみると、子どもたちは、「嬉しいと思うよ。」と答えるでしょう。さらに「どうしてなの？」と聞いてみると、「だってさ、春が来て、やっと土の中から外に出られたんだよ。これから、ご飯と食べたり、遊んだり色々できるでしょ。」という答えが返ってくるかもしれません。

「この時のかえるみたいな気持ちになったことある？」

同じような経験をしたことや、その時の気持ちを聞き出し、似ているところや違うところを一緒に考えます。

これが、書いてあることについて、自分の経験と重ねながら気づいたことを考えるということです。

もしかしたら、「前ね、雨が続いて、ずっと外で遊べなかったことがあったの。やっと晴れて外に出たときに、とても気持ちよくて、うれしかったよ。だから、かえるも同じ気持ちなんじゃないかな」という答えが返ってくるかもしれません。

④「〇〇ちゃんは、そう考えたんだ！ママ（パパ）はね、、、って、考えたんだよ！」

最後に、④「書いてある同じ部分について、家の人の考えを聞き、自分の考えとの違いに気付く」についてです。

子どもは、自分なりに読み取ったことを音読として表現したわけです。ここで、同じ文について、家の人音読します。そこで、なぜその音読の仕方になったのか、「〇〇ちゃんは、そう考えたんだ！ママ（パパ）はね、、、って、考えたんだよ！」と、子どもに話します。すると、同じ文なのに、感じ方が違うことに気づき、「そういう読み方もあるのか」や「自分の読みの方がグローブみたいなかえるの気持ちに合っている」など、比べることで自分の読み取り方を深めることができるのです。

ここで大切なのは、**まず子どもの読み取りを受け止めて共感し、肯定してから、大人の読み取りを伝える**ことです。これをしないと、子どもは、自分の考えを大人に修正されたと勘違いし、自信を失くしてしまいます。あくまでも、「**自分の考え**」については、**すべての人が平等にもっていて良いもの**だということを保障しておきたいです。

学校で学習する場合は、たくさんの友達の表現と自分の表現を比べることができますが、家庭では家族がその役割を果たしていただくことになるでしょう。

こうしたことを繰り返し、学年が上がるごとに、物語を味わう力が育っていくこととなります。**気を付けたいのは、ただ物語の内容を理解することが目的ではなく、「読む力」を育てていくことを目的にする**ということです。ぜひ、上の学年

につながるように、さらには余暇として小説を読んだり、映画を鑑賞したりするなど、将来の文学作品の楽しみ方を身につけられるように、ご家庭で国語の学習を進めてみてはいかがでしょうか。

(5) おわりに

このような状況だからこそ、お子さんの成長を、つまり「**できなかつたことができるようになる瞬間**」を味わっていただけたらうれしいです。普段、お子さんは学校で、一生懸命頑張り、成長し続けています。すべての子が、それぞれの成長をしています。その成長の瞬間をいつも間近で見ているのが、教員です。とても幸せな職業です。この休校期間は、それが見られず、とても残念です。

しかし、その成長の瞬間をご家庭で見えていただけるチャンスだとも思っています。ぜひ、お子さんの成長の瞬間を見ていただき、たくさんほめてあげてください。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。